荒牧 弘敏 議員

大池公園開発の進捗状況は

岡崎開発交流推進課長 関係機関と協議をしている

問 事業費などの変更は。

岡崎開発交流推進課長 現在、事業費の削減、補助金などの照会を行っており、概要などがまとまった段階で報告する。

問 開発の年度毎計画案は。

岡崎課長 今年度から関係機関と協議を行っており、めどがついた段階で詳細なスケジュール、年次計画が確定すると考えている。

問 町の自主財源についての考えは。

坪根町長 今までの大型事業より町の負担が軽減できるよう現在努力している。

大池公園

コモンパーク彩葉の現状は

問 平成27年11月末までの販売状況は。

福田企画情報課長 全77区画のうち45区画が販売済である。

問 購入者の満足度把握は。

福田課長 今年6月に実施したアンケート調査で、実際に住んでいる人からは、住んで良かった、静かで住みやすく景観に統一感がある。通りぬけの少ないコモンパークは小さい子どもにも安心で、子育て環境に最適であると感想が寄せられている。また、訪れた人からは、街角の感じが良く、自然が多くて雰囲気が良いとの声が聞かれているが、木の植栽が多すぎる、外灯が少ないという意見もいただいている。

集落営農組織への支援は

問 組織への支援は。

尾崎産業振興課長 集落営農組織は15組織あり、うち法人は8組織・任意は7組織。法人組織への経営支援などは直接行っていないが、新たに法人を設立する場合、設立費用として国から40万円の補助がある。任意組織には、町独自の農林漁業振興推進事業で1組織に毎年3万円交付している。麦・大豆の生産者には、町単独の種子更新事業で種子1kg当たり麦40円以内・大豆60円以内交付している。

問 組織への経営支援の方向性は。

坪根町長 頑張る人を応援したい。実態をしっかりと把握し、これからも支援する。

高齢者にやさしい町づくりを

問 高齢者世帯の配食サービスの現状と利用世帯以外の現状は。

末松長寿福祉課長 配食サービスの対象者は、65歳以上の単身世帯、高齢者のみの世帯、これに準ずる世帯、心身の障がいなどで調理が困難な方である。配食サービスの申請があれば訪問し、個人の状態、家族の状況を十分確認した上で、社会福祉協議会に委託し対応している。利用世帯以外は、家族からの支援、民間事業者の利用などさまざまであり、今後は、民間事業者も視野に入れながら必要な人に配食サービスを提供していきたいと思っている。

社会福祉協議会「配食サービス」

問 買い物難民について、移動スーパーなど全国的にいろんな対策がなされていると思うが対応は。

末松課長 現在、道の駅しんよしとみで材料が必要な方には連絡があれば配達している。社会福祉協議会で全41地区において福祉会議を行っており、今後の対策については、その中で要望を把握し、検討したいと思っている。

▲道の駅しんよしとみ買い物代行配達チラシ

三田 敏和 議員

防災行政無線が聞こえない

川口総務課長 役場に連絡があればすぐ対応

問 防災行政無線が、雑音などで聞こえない場合があると聞くが、現状は。

川口総務課長 随時、点検を行っている。個別の無線に問題がある場合、役場に連絡をいただければ、業者に依頼し、交換などで対応している。

問 災害時の連絡手段は。

川口課長 国・県などから町、直接住民へ、町から消防団・自治会長・防災推進委員または、直接住民へ。情報発信の手段は、防災行政無線、テレビ、ラジオ、Jアラート※、県防災無線、エムネット※、エリアメール、固定電話、携帯電話などがある。その他、消防車、公用車での広報、職員からの伝達などで周知している。

※Jアラート
全国瞬時警報システム
※エムネット
国と地方公共団体を専用回線でつなぐ緊急情報システム

問 町の情報を聞き逃した場合、他市町村では録音機能で聞くことができるが、知る手段は。

川口課長 防災推進委員による周知などであり、防災以外では、地域のコミュニケーションを活用した声かけなどである。

問 先日、Jアラートの試験放送をする旨連絡を防災行政無線と回覧で広報した。確実に聞こえたか、確認する内容文を入れるべきではなかったか。

川口課長 今後は、そのようしたい。

問 今後、デジタル化の方向が示されているが、町の対応は。

川口課長 国の指示もあり、補助事業を活用し早急に取り組みたい。

インターネット光の普及状況は

問 光回線普及の現状は。

福田企画情報課長 未普及地域は、西友枝、東上、尻高、有野の一部。

問 以前、答弁でNTTと協議を進めるとあったが進展しているか。

福田課長 具体的な進展はないが、今後も協議を進め補助事業などの活用を考えたい。

問 町長は人口ビジョン1万人を掲げている。山間部も人の賑いがないと難しい。光の普及は喫緊の課題ではないか。

坪根町長 山間部の整備が進まないと人口1万人には到底できない。光も当然重要と思う。

問 近隣市町は、すべて普及している。本町の光普及の実態をどのように認識か。ワーキングステイ事業でも課題ではないか。

福田課長 できるだけ早い時期に全地域普及したい。

問 ワーキングステイ事業でも課題ではないか。

福田課長 地域によっては困難という意見の方もいる。

ピロリ菌検査の対応は

問 20代で除菌すれば、胃がんは抑えられる。来年度に向けて進捗は。

垂水子ども未来課長 導入した豊前市では有益な結果が出ている。来年度は関連情報の収集など継続すべき課題として検討する。

坪根町長 総合的に判断し、前向きに検討していく。

学校現場でのICT活用は

問 学校現場におけるICT※の活用が国から求められている。上毛町の現状は。

※ICT 情報通信技術

百留教育長 文科省は、パソコンからの情報を駆使できるタブレット端末が一番有効だといわれている。上毛中学校ではパソコン技術を学ぶためのパソコンを設置している程度で、教育は専門家を呼んで生徒に指導している。

問 今後の計画は。

百留教育長 中学で機種の選定など検討を始めた。活用の利便性を広げるため、小学校の先生方を含め、100名の先生を対象に夏休み研修を重ねる。次年度に本格化の方向。

問 先生の異動があれば一から教育、堂々巡りとなる。地域としてレベルを上がるよう京築教育事務所管内で教育ができないものか。

百留教育長 技術全体が高まることなので、管内の教育委員会に「やろうじゃないか」と機会あるごとに提唱したい。

上毛中学校パソコン教室